

2017年3月3日

認定審査結果報告書

一般社団法人日本技術者教育認定機構

(1) 審査プログラム

教育機関名： 宮崎大学 工学部

認定プログラム名： 機械設計システム工学科

認定分野： 機械及び関連の工学分野

(2) 審査結果

認定審査結果： 認定を可とする。

審査結果の内容： 別添の「審査結果」に記載。

認定期間： 2016年4月1日～2022年3月31日の6年間

(3) 次回審査の内容・手続き

次回審査年度： 2022年度

審査の種類： 認定継続審査（通常審査）

自己点検書の審査と実地審査による「通常審査」を実施

審査項目： 認定基準に基づく全ての点検項目

JABEEは国際的な動きも含めた技術者教育の進展や、教育プログラム側からのご意見を参考に、審査の質向上に継続して取り組んでおります。また、教育プログラムには、「技術者教育認定に関わる基本的枠組 第3章 認定の基本的立場 3.1(2)」に掲げる“優れた教育方法の導入を促進し、技術者教育を継続的に発展させる”を旨に、教育点検および改善に継続して取り組まれますようお願いしております。次回の認定継続審査においては、今回の審査で「A」と判定された項目を含め全ての基準項目につきまして、これらの観点をふまえて審査を行いますので、ご理解のほどお願いいたします。

次回受審については、審査を受ける年度に有効な認定基準、認定基準の解説、認定・審査の手順と方法、自己点検書作成の手引き等に従ってお取り進めください。

(4) 認定プログラム修了生の管理について

別添の「JABEE 認定プログラム修了生の名簿管理と修了証明書類の発行について」に従って、厳正な管理をお願いします。

(5) 依頼事項

- ・認定期間中に、学部・学科・プログラム名の変更が発生した時は、毎年 JABEE からご提出を依頼する「年次報告」により JABEE 事務局にお届けください。詳しくは下記をご参照願います。

<http://www.jabee.org/accreditation/basis/documents/>

- ・別添の「審査結果」は、JABEE の各審査過程を経た最終報告ですので、貴方で必要があれば内容の公表は可能ですが、先に実地審査後にお渡しした一次審査報告書記載の判定内容については審査の中間段階のものであり、今後も公表しないようにお願いします。
- ・審査を担当した審査チームの個人名、および JABEE から提供した審査チーム構成メンバーの個人情報については、今後も秘密厳守願います。
- ・JABEE 認定審査に関わるご連絡を E メールにてお送りすることがございますので、JABEE 対応責任者およびプログラム責任者の変更が生じた際は、速やかに JABEE 事務局 (E-mail accreditation@jabee.org) までご連絡ください。

以上

日本技術者教育認定機構
〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20
(建築会館 4F)
電話 03-5439-5031
FAX 03-5439-5033
E-mail accreditation@jabee.org

自己点検書

(1. 概要編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2012年度～）
適用年度：2016年度

宮崎大学 工学部
機械設計システム工学科
(エンジニアリング系学士課程)
(機械及び関連の工学分野)
Mechanical Engineering

審査分類：認定継続審査

提出日 2016年6月30日

1.1 プログラム情報

(1) 高等教育機関名およびその英語表記：

宮崎大学 工学部

Faculty of Engineering, University of Miyazaki

(2) プログラム名：機械設計システム工学科

(3) Program Title (プログラムの専門分野名の英語表記)：Mechanical Engineering

(4) 学位名：学士 (工学)

(5) 連絡先

・JABEE 対応責任者氏名：横田 光広

所属・職名：工学教育研究部・工学教育研究部長

郵便番号：889-2192

住所：宮崎市学園木花台西 1-1

電話番号：0985-58-2869

ファックス番号：0985-58-2869

メールアドレス：t0b210u@cc.miyazaki-u.ac.jp

・プログラム責任者氏名：岡部 匡

所属・職名：工学教育研究部・教授

郵便番号：889-2192

住所：宮崎市学園木花台西 1-1

電話番号：0985-58-7302

ファックス番号：0985-58-7302

メールアドレス：okabe@cc.miyazaki-u.ac.jp

1.2 プログラム概要（プログラムの概要を2ページ程度で簡潔に記載する）

1. プログラムの沿革（これまでの学科／専攻・コース改組の経緯など）

本教育プログラムの前身となる機械工学科は、1949年に宮崎大学工学部の一学科として発足した。1992年には、当時の機械工学の著しい発展に対応するため、材料力学、機械力学、熱力学、流体力学、生産加工学の機械工学の基盤分野の他に、計測・制御工学、情報工学などの教育内容をカリキュラムに取り入れた機械システム工学科に改組された。この改組において、学科の組織は、従来の小講座制から、設計システム工学とエネルギーシステム工学から構成される二大講座へと再編された。2012年の改組では、全教員が所属する教員組織として工学教育研究部が組織され、工学部は6学科体制から7学科体制へと改編された。機械システム工学科は、現在の機械設計システム工学科へと名称が変更され、機械設計分野に重点を置いたカリキュラムに改編された。本学科の専門教育は、工学教育研究部の機械設計システム工学科担当教員が主に担当し、工学基礎科目は、新たに組織された工学基礎教育センターの教員が主に担当することとなった。機械設計システム工学科では、工学部内の他学科・各センターとの緊密な連携をはかりながら、教育・研究の高度化、総合化などを推進している。また、全学的な変遷としては、2003年に宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、新たな宮崎大学として、教育・研究の充実がはかられてきている。以上のように、本学科は、創設以来66年間にわたって数多くの機械技術者を輩出し、社会及び科学技術の発展に大きく貢献してきた。

21世紀の機械技術者には、専門知識を身に付けるだけでなく、技術者としての倫理観や地球環境問題の理解など多面的な能力が要求されている。本プログラムでは、2004年度から、教育改善全般を取り扱う委員会として、学科の全教員をメンバーとする教育プログラム検討委員会、拡大教育改善委員会を設置し、教育プログラム全般の計画、実施、自己点検、改善を全教員で実施する仕組みを確立した。特に、本プログラムは、宮崎における自然環境の恵の中で「人にやさしく」かつ「自然と調和できる」機械を創造する素養をもった技術者の育成を目的として掲げ、これを実現するための具体的な学習・教育目標として“PHOENIX”を2006年に設定した。2005年にJABEE新規審査を受審し、2006年に教育認定基準に適合している教育プログラムとして認定された。以後、2007年の中間審査の受審後、2008年、2011年の認定継続を経て、2012年には、上記の工学部の改組にともなうプログラム変更に関する認定の了承を受けている。

2. 修了生の進路と育成する技術者像との関係

本プログラムは、機械工学科が発足した1949年から現在まで、数多くの機械技術者を育成してきた。大学院への進学者以外、修了生のほとんどは機械技術者として製造業に就職しており、就職率は毎年100%である。このような修了生の就職状況や企業での活躍状況から、本プログラムが育成しようとする、機械工学の基礎と専門知識を有し、機械と自然

との調和を考え、「人と自然に優しいものづくり」を行える技術者像は修了生の進路と社会の要求を配慮して設定されたものである。

3. 学習・教育到達目標の特徴や水準

本プログラムでは、機械技術者にとって最も重要である機械4力学及び設計加工分野を中心とした教育をベースに、社会・資源・環境問題に関する内容の教育、さらに、技術者として求められる倫理とコミュニケーション能力の教育も行っている。本プログラムの学習・教育到達目標“PHOENIX”の特徴は、プログラムの伝統、地域性、修了生の活躍分野を総合的に考慮し、技術者としての素養と能力を修了生が確実に身につけられることである。

本プログラムに含まれる全ての科目のシラバスには、教育内容と本プログラムの学習・教育到達の目標との関連、成績評価基準を明記している。教育内容と試験問題は国内の代表的な教科書、国内大学の同科目担当教員や企業等の技術者がウェブサイトで公開した講義内容や技術情報及び試験問題などを参考にして決めたものである。このことによって、各科目の教育水準は国内大学の機械系学科修了生の平均水準に達していること、また、OBに対するアンケートの調査結果では本プログラムの専門教育レベルに満足しているとの回答が80%以上あることから、本プログラムの教育水準は社会が求めているレベルに達している。

4. 関連する他の教育プログラム（関連学科／専攻、関連コース等）との関係

本プログラムと関連する他の教育プログラムはなく、工学教育研究部に所属する本学科担当の教員が本教育プログラムを実施している。ただし、他の教育プログラムとの間には教育の相互支援体制が構築されており、数学、物理、化学などの基礎教育科目や一部の専門科目の教育については、その専門性を考慮して、本学科担当以外の教員が担当している。科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、教育改善を行うために、教員間ネットワークによる活動が行われている。

5. カリキュラム上の特色

本プログラムは、「人と自然に優しいものづくり」を目指す専門技術者を養成するため、専門への導入教育、ものづくりデザイン教育、少人数教育およびアクティブラーニングに特色のあるカリキュラムを編成し、教育を実施している。

専門への導入教育については、「専門教育入門セミナー」の中でプレゼンテーション能力の育成とともに各研究室での体験学習を通して、1年生に機械工学への興味を持たせることにより専門教育への導入が滑らかに行えるようにしている。

ものづくりデザイン教育については、「応用機械設計製図」の中にデザイン課題を導入し、学生が与えられた課題に対して自分たちのアイデアを盛り込んだ設計を行い、その設計に

基づいて製品を製作し、結果を発表する授業を行っている。この授業から、学生の創造性、自発性、プレゼンテーション能力を養い、その成果を卒業研究に結びつけるようにしている。

少人数教育については、実験・実習科目ばかりでなく、「専門教育入門セミナー」、「機械創造実習」、「応用機械設計製図」などでも実施しており、あわせてアクティブラーニングを導入し学生間の協働や能動的な学習を促している。

6. その他の特色

- 1) 工学部では担任・副担任制を採用しており、就職支援を含め学生からの様々な相談に対応している。
- 2) 学期ごとに受講できる単位数を 25 単位に制限し、学生の十分な自己学習時間を確保している。
- 3) 推薦入学合格者に対し、数学と物理の入学前教育を行い、入学後の授業に円滑に対応させている。また、学生の基礎学力や学習履歴に応じて、数学や物理の補習授業を行い、基礎学力の向上を図っている。

1.3 最近の教育改善の状況

工学部キャリア支援システムを提供して、学生が成績、GPA、学習・教育到達目標の達成状況を確認し、学期ごとの自己評価と次学期への目標を記入し、学修状況を自己管理できるようにした。教員が担当科目ごとに、1)改善を行ったこと、2)自己評価、3)今後改善すべきことの3項目を記載した「授業改善報告書」を作成し、半年ごとに開催される「拡大教育改善委員会」に提出し、意見交換を行い、教育活動の点検を行っている。前回の審査でこの活動があまり行われていないとの指摘を受けたが、会議の回数を増やし十分な時間をかけて検討を行うよう改善した。また、毎年「PDCA 自己報告書」を、3年毎に「教員個人評価のための自己申告書」を工学部に提出している。さらに、学科としては、「自己点検評価報告書」を作成し、工学部へ毎年報告し教育活動を点検している。社会の変化への対応については、企業および卒業生へのアンケート調査、全国にある同窓会支部の支部総会への教員の派遣、高大連携協議会開催等を実施して情報を得ている。

2015年度より準備を行い、2016年度から学科内で出席管理システムを運用している。このシステムでは、すべての学生の出席状況をリアルタイムに把握できるようになっている。学科内推進委員が問題学生を担任に通知し、適宜担任が学生を指導している。

1.4 自己点検結果編の総括文

本プログラムでは、「人と自然に優しいものづくり」のできる技術者の育成のため、具体的な学習・教育目標として“PHOENIX”を設定している。この学習・教育到達目標を達成するためのカリキュラムを編成した。学生への支援体制、教員による教育点検システム、

学部・学科間による教員の協力体制、全学・学部・学科における FD 活動などが積極的に実施されている。本学部では、全教員が所属する工学教育研究部が組織されている。本プログラムの教員全員は、機械設計システム工学担当として、本プログラムの専門科目を主に担っている。一方、一部の専門科目の教育については、その専門性を考慮して、本学科担当以外の教員が担当している。また、数学、物理などの工学基礎科目については、工学基礎教育センターの教員が担当している。

学生に対しては、入学時のオリエンテーションでイエローブックを配布し、本教育プログラムが目指す技術者像、学習・教育到達目標（PHOENIX）及びその達成のためのカリキュラム構成などを説明している。本プログラムの学生は、入学から修了まで、学期ごとにポートフォリオを作成して各自の成績、GPA、学習・教育到達目標の達成状況などの確認を行なっている。この指導には、キャリア支援システムが有効に利用されている。また、本プログラムでは、担任・副担任制を採用している。担任は、入学から卒業まで、履修・進路指導などきめ細やかな支援を行っている。さらに、宮崎大学附属図書館、宮崎大学英語学習支援システム、学生なんでも相談室、自習室の設置などの学生への十分な設備・支援体制が存在している。

本プログラムでは、PDCA サイクルを通して総合的に改善に取り組む教育点検システムが存在する。本プログラムの教員は、「学生による授業改善アンケート」を通して授業効果や問題点を確認し、その結果を踏まえて「授業改善報告書」を作成している。さらに、「PDCA 自己報告書」、「教員個人評価のための自己申告書」の作成など、教育活動の点検を継続的に実施している。本プログラムでは、拡大教育改善委員会による教育改善に関する活動報告と意見交換、FD 活動の実施、アクティブラーニング（能動学習）の導入など教育方法の改善が継続的に実施されている。これらは、教員の教育活動に反映されている。

本教育プログラムは、2006 年の JABEE 認定以来、学習・教育到達目標である“PHOENIX”を達成した多くの技術者を育成してきた実績がある。本教育プログラムは、JABEE 認定基準を満足しつつ、さらなる教育の改善に継続的に取り組んでいる。

自己点検書

(2. 自己点検結果編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2012年度～）
適用年度：2016年度

宮崎大学

機械設計システム工学科

(エンジニアリング系学士課程)
(機械及び関連の工学分野)

Mechanical Engineering

審査分類：認定継続審査

提出日 2016年6月30日

記入上の注意

- ・白色のセルにのみ記入してください。着色及び網かけのあるセルには記入しないでください。
- ・「自己判定結果」欄に、プログラム側の視点で自己判定結果を記入してください。
自己判定の指標は下記のとおりです。
 - ◎：認定基準の要求事項を満了し、さらにそれを上回る取り組みを行っている
 - ：認定基準の要求事項を満了している
 - △：認定基準の要求事項を概ね満了しているが、改善の余地がある
- ・「基準への適合状況の説明」欄に説明を簡潔に記入してください（多くても200文字程度を目安）。
- ・「前回受審時からの改善・変更」欄には、下記の説明を記入してください（多くても200文字程度を目安）。なお、新規審査の場合は記入不要です。
 - (1) 前回受審時の「W：弱点」に対する対応
 - (2) 前回受審時の「[C]：懸念」に対する対応
 - (3) その他の前回受審時からの改善、変更
- ・「根拠資料」欄には、根拠となる資料の名称と整理番号又はWebページのURLを記入してください。
添付資料、実地審査閲覧資料には整理番号を付し、該当する資料の整理番号を「根拠資料」欄に記入してください。
なお、整理番号は、添付資料と実地審査閲覧資料が区別できるよう付してください（例：TxxとJxx）。
この欄に記載した資料に対応させて、添付資料編の表5及び表6の一覧表を作成してください。
Webページで公開されているものについてはURLを記入してください。その場合でも、負担にならない範囲で自己点検書の添付資料に含めてください。

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|---------|---|--------|---|---------------|---|
| 1 | 基準 1 学習・教育到達目標の設定と公開 | | | | |
| 1(1) | プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていること。この技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものであり、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものであること。さらに、その技術者像が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員および学生に周知されていること。 | | | | |
| 1(1)[1] | プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていますか？ | ◎ | 機械工学の基礎と専門知識を有し、さらに、機械と自然との調和を考え、「人と自然に優しいものづくり」を行える技術者を本プログラムが育成しようとする自立した技術者像として定めている。 | 変更なし | A-1-1 学科ホームページ http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/ A-1-2 機械設計システム工学科パンフレット http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/pdf/pamphlet2012.pdf |
| 1(1)[2] | 上記の技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものですか？ | ◎ | 1949年から今日まで数多くの機械技術者を輩出してきた機械系学科の伝統を継承し、機械技術者に必要な専門知識の修得の必要性、さらに、資源・エネルギー・環境問題などの社会からの要求と修了生が活躍する製造業の技術発展の動向を十分に考慮して上記の技術者像を定めたものである。 | 変更なし | J-1-1 宮崎大学工学部改組計画書, pp.1-2, 9, 15-18 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/kaiso/kaiso_keikaku20110314.pdf (学内のみ閲覧可) J-1-2 平成25年度工学部FDに関する報告書, pp.82-87 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tech_FD_report_H25.pdf (学内のみ閲覧可) J-1-3 平成26年度工学部FDに関する報告書, pp.95-116 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tech_FD_report_H26.pdf (学内のみ閲覧可) A-1-3 工学部概要 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/about/history.html A-1-4 学科概要／過去の主な就職先 http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/overview/index.html A-1-5 教育方針・教育目標について／教育内容／機械設計システム工学科の主な専門教育科目 http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/education/index.html |

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|---------|---|--------|--|---|---|
| 1(1)[3] | 上記の技術者像は、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものですか？ | ◎ | 企業と卒業生へのアンケートから読み取れた機械技術者の能力と素養に対する要望と、資源・エネルギー・環境問題など現代社会からの要求、および、卒業生の教育プログラムに対する意見調査によって得られた学生の要望等に配慮して上記の技術者像を定めた。 | 機械系同窓会での「宮崎大学工学部機械（システム）工学科卒業生アンケート」により、社会の要望に配慮するよう改善した。 | T-1-1 宮崎大学工学部機械(システム)工学科卒業生アンケート 集計結果 J-1-1 宮崎大学工学部改組計画書, pp.15-18 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/kaiso/kaiso_keikaku_20110314.pdf (学内のみ閲覧可) J-1-2 平成25年度工学部FDに関する報告書, pp.58-61, 82-87 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tech_FD_report_H25.pdf (学内のみ閲覧可) J-1-3 平成26年度工学部FDに関する報告書, pp.95-116 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tech_FD_report_H26.pdf (学内のみ閲覧可) J-1-4 宮崎大学工学部機械(システム)工学科 卒業生アンケート |
| 1(1)[4] | 上記の技術者像は、広く学内外に公開されていますか？ | ◎ | 上記の技術者像は学部や学科のホームページおよび学科紹介資料で広く学内外に公開している。さらに、進学説明会や出前講義など様々な機会を利用して、教員による本プログラムで育成される技術者像についての説明を行っている。 | 変更なし | A-1-2 機械設計システム工学科パンフレット http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/pdf/pamphlet2012.pdf A-1-6 工学部・研究科のディプロマポリシー http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/kyouiku/edu-target.html A-1-7 学習・教育目標 http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/ |
| 1(1)[5] | 上記の技術者像は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？ | ◎ | 教員および学生に対しては、学科ホームページおよび学科紹介資料で周知している。特に、一年生には、入学時にイエローブックを配布して本プログラムが育成している技術者像が周知されている。 | 変更なし | T-1-2 イエローブック(学生の手引き) A-1-8 機械設計システム工学科の教育目的と概要 http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/jabee/index.html |
| 1(2) | プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものであり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習・教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。なお、学習・教育到達目標を設定する際には、(a)～(i)に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。 | | | | |

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|------------|--|--------|--|--|--|
| 1(2)[1] | プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていますか？ | ◎ | プログラムが育成しようとする技術者の育成のため、JABEEの基準に要求される知識・能力の(a)～(i)が学習・教育到達目標（PHOENIX）に具体的に設定されている。PHOENIXに含まれる各目標には複数の科目が配置され、各科目のシラバスに書かれている知識・能力を確実に履修生が身につけるようにしている。 | 平成24（2012）年の学部改組にともなって、教育プログラム、および、PHOENIXに含まれる各学習・教育到達目標に対応する科目を変更した。この変更に関してはJABEEに変更通知を行い、承認を受けている。なお、2012年度のJABEEの基準に要求される知識・能力(i)に関しては、これまでの教育プログラムの内容に既に含まれている。平成28年度以降の入学生については、JABEEの基準に要求される知識・能力の(i)を追加している。 | 表1 学習・教育到達目標と基準 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 T-1-3 シラバスの一例 T-1-4 変更通知への回答 J-1-5 主要科目のシラバス |
| 1(2)[2] | 学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものですか？ | | | | |
| 1(2)[2](a) | 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 | ◎ | この能力の養成は、主として、学習・教育到達目標（PHOENIX）のH,Nで具体的に対応している。Hでは「人と機械との共存や機械と自然との調和を考えるための能力」、Nでは「自然環境を維持するために、資源とエネルギーの有効利用を考える能力」としており、作り出す機械の機能や性能のみならず、資源や環境などの影響も含めて多面的に物事を考える能力と素養を身につけるようにしている。 | 平成24年の学部改組にともなって、教育プログラム、および、PHOENIXに含まれる各学習・教育到達目標に対応する科目も変更した。この変更に関してはJABEEに変更通知を行い、承認を受けている。 | 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 J-1-5 主要科目のシラバス |
| 1(2)[2](b) | 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解 | ◎ | この能力の養成は、主として、学習・教育到達目標（PHOENIX）のH,O,Nで具体的に対応している。Hでは「人と機械との共存や機械と自然との調和を考えるための能力」、Oでは「社会秩序や自然環境保護に対する技術者の責務を考える能力」、Nでは「自然環境を維持するために、資源とエネルギーの有効利用を考える能力」としており、ものづくりによって人々の生活が豊かになった反面、資源や環境への影響も深刻になりつつあり、社会に対して負っている技術者の責任を理解できるようにしている。 | 同上 | 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 J-1-5 主要科目のシラバス |
| 1(2)[2](c) | 数学及び自然科学に関する知識とそれらを用いる能力 | ◎ | この能力の養成は、主として、学習・教育到達目標（PHOENIX）のEで具体的に対応している。Eでは「機械技術者としての工学の基礎および専門的知識」としており、機械技術者として必要な数学と物理、及びその他の自然科学に関する知識を修得させ、それらを用いる能力を身につけるようにしている。 | 同上 | 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 J-1-5 主要科目のシラバス |
| 1(2)[2](d) | 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを用いる能力 | ◎ | この能力の養成は、主として、学習・教育到達目標（PHOENIX）のP,E,Xで具体的に対応している。Pでは「社会の要求や制約に応えるため、自主的に計画して、それを継続的に実行できる能力」、Eでは「機械技術者としての工学の基礎および専門的知識」、Xでは「得られた成果を吟味し、まとめる能力」としており、機械技術者として必要な専門知識を修得させ、それらを用いた問題解決能力を身につけるようにしている。 | 同上 | 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 J-1-5 主要科目のシラバス |
| 1(2)[2](e) | 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力 | ◎ | この能力の養成は、主として、学習・教育到達目標（PHOENIX）のIで具体的に対応している。Iでは「自分のアイデアを実現できるデザイン能力およびそれを説明するコミュニケーション能力」としており、社会の要求と設計製作の制約条件を考慮して、学習した学問と技術を活用して問題を解決できるデザイン能力と、技術者同士のコミュニケーション能力を身につけるようにしている。 | 同上 | 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 J-1-5 主要科目のシラバス |
| 1(2)[2](f) | 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 | ◎ | この能力の養成は、主として、学習・教育到達目標（PHOENIX）のIで具体的に対応している。Iでは「自分のアイデアを実現できるデザイン能力およびそれを説明するコミュニケーション能力」としており、設計や研究開発に必要な記述力、口頭発表能力、ディスカッション能力を身につけるようにしている。 | 同上 | 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 J-1-5 主要科目のシラバス |

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|------------|---|--------|---|--|--|
| 1(2)[2](g) | 自主的、継続的に学習する能力 | ◎ | この能力の養成は、主として、学習・教育到達目標（PHOENIX）のP,Xで具体的に対応している。Pでは「社会の要求や制約に応えるため、自主的に計画して、それを継続的に実行できる能力」、Xでは「得られた成果を吟味し、まとめる能力」としており、技術者として活躍するため、自己研鑽を目的とした自習学習、情報収集能力を身につけるようにしている。 | 同上 | 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 J-1-5 主要科目のシラバス |
| 1(2)[2](h) | 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力 | ◎ | この能力の養成は、主として、学習・教育到達目標（PHOENIX）のP,Xで具体的に対応している。Pでは「社会の要求や制約に応えるため、自主的に計画して、それを継続的に実行できる能力」、Xでは「得られた成果を吟味し、まとめる能力」としており、与えられ課題に対して、制約条件をクリアしながら、計画的に設計や研究を遂行する能力を身につけるようにしている。 | 同上 | 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 J-1-5 主要科目のシラバス |
| 1(2)[2](i) | チームで仕事をするための能力 | ◎ | この能力の養成は、主として、学習・教育到達目標（PHOENIX）のIで具体的に対応している。Iでは「自分のアイデアを実現できるデザイン能力およびそれを説明するコミュニケーション能力」としており、問題解決方法の検討、役割分担、実施計画、成果評価など一連の仕事を少人数チームで成し遂げる能力を身につけるようにしている。 | グループでのディスカッション、プレゼンテーション、設計試作などを行うアクティブラーニング形式で実施することを明文化し、学習・教育到達目標の達成を図っている。なお、本取組はJABEEの基準として知識・能力(i)が設定される前から実施していた。 | 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 J-1-5 主要科目のシラバス |
| 1(2)[3] | 学習・教育到達目標は、水準も含めて設定されていますか？ | ◎ | 本プログラムで開講されている科目には学習・教育到達目標を明確化かつ具体化している。教育水準は、国内外で使用されている標準的な教科書や講義資料を参考に設定している。目標到達の判断基準については成績評価方法を公開し、学部内規に定めている成績評価基準に沿って、60点以上の得点を到達の基準としている。授業内容や水準について、学科の拡大教育改善委員会で検討している。 | 変更なし | T-1-5 機械設計システム工学科拡大教育改善委員会 議事メモ T-1-6 定期試験の評価水準 J-1-6 授業改善報告書 |
| 1(2)[4] | 学習・教育到達目標は、広く学内外に公開されていますか？ | ◎ | 工学部のキャンパスガイド、学科のホームページ、キャリア支援システム等で公開している。 | 変更なし | T-1-7 キャリア支援システム https://sce.teng.miyazaki-u.ac.jp/karte/student/mau0010/ J-1-7 平成27年度工学部キャンパスガイド(学生便覧), p.461 http://gakumu.of.miyazaki-u.ac.jp/gakumu/images/pdf/educationalinfo/h27campus-guide/27campus-guide-kougakubu.pdf A-1-7 学習・教育目標 http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/ |
| 1(2)[5] | 学習・教育到達目標は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？ | ◎ | 本プログラムの学習・教育到達目標（PHOENIX）は工学部のキャンパスガイド（学生便覧）、イエローブック、学科のホームページ、キャリア支援システムで周知している。 | 変更なし | T-1-7 キャリア支援システム https://sce.teng.miyazaki-u.ac.jp/karte/student/mau0010/ T-1-8 平成27年度工学部キャンパスガイド, p.461 http://gakumu.of.miyazaki-u.ac.jp/gakumu/images/pdf/educationalinfo/h27campus-guide/27campus-guide-kougakubu.pdf A-1-7 学習・教育目標 http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/ |

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|-----------|--|--------|--|---|---|
| 2 | 基準2 教育手段 | | | | |
| 2.1 | 2.1 教育課程の設計 | | | | |
| 2.1(1) | 学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程（カリキュラム）が設計され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていること。なお、標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たすこと。 | | | | |
| 2.1(1)[1] | 学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程（カリキュラム）が設計されていますか？ | ◎ | カリキュラムは表3に示された方針により設計されている。具体的には、基礎教育と数学・物理・化学などの工学基礎教育、ならびに機械工学及びその関連の工学分野の学科専門教育から構成され、講義、演習、実験、実習、卒業研究の形態が組み合わされている。よって、表4に示された順序で、科目を履修することにより、学生が本プログラムの学習・教育到達目標（PHOENIX）を達成できる。 | 平成24（2012）年に工学部の改組を行い、機械システム工学科を機械設計システム工学科に再編した。この変更に関してはJABEEに変更通知を行い、承認を受けている。 | 表3「学習・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明」 表4「学習・教育到達目標の達成するために必要な授業の流れ」 T-2-1 認定プログラム変更通知 表紙 T-1-4 変更通知への回答 J-2-5 認定プログラム変更通知 |
| 2.1(1)[2] | カリキュラムが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？ | ◎ | カリキュラムは、キャンパスガイド及びイエローブックに掲載されており、教員及び学生に配布して開示されている。 | 変更なし | T-2-2 平成27年度工学部キャンパスガイド, pp.459-461 http://gakumu.of.miyazaki-u.ac.jp/gakumu/images/pdf/educationalinfo/h27campus-guide/27campus-guide-kougakubu.pdf T-1-2 イエローブック(学生の手引き) |
| 2.1(1)[3] | カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていますか？ | ◎ | 各科目と本教育プログラムの学習・教育到達目標（PHOENIX）との対応関係がイエローブックおよび表4に明確に示されている。 | 変更なし | 表4「学習・教育到達目標の達成するために必要な授業の流れ」 T-1-2 イエローブック(学生の手引き) |
| 2.1(1)[4] | 標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たしていますか？ | ◎ | 修業年限は4年間、卒業に必要な総取得単位数は128単位、数学、自然科学及び科学技術に関する教育内容は全体の約70%であり、機械及び関連の工学分野の学士課程プログラムに関する分野別要件を満たし、個別基準に定められた事項を満たしている。 | 変更なし | T-2-3 平成27年度 キャンパスガイド, p.62(宮崎大学学務規則 第4節 修業年限及び在学期間) T-2-4 平成27年度 キャンパスガイド, pp.457-461(卒業に必要な単位数) |
| 2.1(2) | カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていること。また、シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていること。 | | | | |
| 2.1(2)[1] | カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成されていますか？ | ◎ | 本プログラムの学習・教育到達目標（PHOENIX）を達成できるように、カリキュラムを設計し、それに基づいて、全ての科目のシラバスが作成されている。 | 変更なし | T-1-3 シラバスの一例 J-1-5 主要科目のシラバス |
| 2.1(2)[2] | シラバスが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？ | ◎ | シラバスは、本学の学生支援部Webサイト、あるいは全学向けの学務情報システムを通じて学内、学外から閲覧可能であり、教職員及び学生に開示されている。 | 変更なし | A-2-1 宮崎大学学生支援部Webサイト 教務情報・シラバスページ http://gakumu.of.miyazaki-u.ac.jp/gakumu/educationalinfo/04-syllabus.html |

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|-----------|---|--------|--|---|--|
| 2.1(2)[3] | シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていますか？ | ◎ | シラバスには、科目と学習・教育到達目標との関連、カリキュラム中での位置付けが明記され、授業内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準などが示されている。 | 変更なし | T-1-3 シラバスの一例 J-1-5 主要科目のシラバス |
| 2.1(2)[4] | シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていますか？ | ◎ | シラバスやキャンパスガイドには、授業計画(回数)と実施時期(時限)が記載されており、各科目の授業時間が示されている。 | 変更なし | T-2-5 平成27年度 キャンパスガイド, pp.426-427(学業履修について) T-2-6 平成28年度 イエローブック, p.10(学習について) |
| 2.2 | 2.2 学習・教育の実施 | | | | |
| 2.2(1) | シラバスに基づいて教育が行われていること。 | | | | |
| 2.2(1)[1] | シラバスに基づいて教育が行われていますか？ | ◎ | 本プログラムの各科目では、学生が学習・教育到達目標を達成するために、シラバスに沿った授業を実施している。このことは科目の授業実績から確認できる。 | 変更なし | J-2-1 科目の授業記録(卒業論文及びその関連資料を含む) |
| 2.2(2) | 学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていること。 | | | | |
| 2.2(2)[1] | 学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていますか？ | ◎ | 本プログラムでは、授業時間以外に自学自習を十分に行わせるために、必要な自学自習の時間を各科目のシラバスに明示している。そのため、半期に履修登録できる科目を25単位までとし、予習・復習や宿題に取り組む時間を確保している。具体的には、各科目では、定期試験以外に小テストや課題レポートなどを与えている。また、一部の科目では、アクティブラーニングの導入により、学生の主体的な学習を促している。 | 変更なし | T-1-3 シラバスの一例 T-2-7 平成27年度 キャンパスガイド, p.458(機械設計システム工学科 3)受講科目の登録ができる1年間の単位数について) J-2-1 科目の授業記録(卒業論文及びその関連資料を含む) J-1-6 授業改善報告書 |
| 2.2(3) | 学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させ、それを学習に反映させていること。 | | | | |
| 2.2(3)[1] | 学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させていますか？ | ◎ | 半期ごとに行うオリエンテーションの中で学生自身にポートフォリオを作成させ、自分自身の学習・教育到達目標の到達度を継続的に点検させている。 | 平成24(2012)年から、キャリア支援システムを利用してポートフォリオの作成が可能となり、学生が学習・教育到達目標の到達度を確認できるように改善された。 | T-1-7 キャリア支援システム https://sce.teng.miyazaki-u.ac.jp/karte/student/mau0010/ J-2-2 機械設計システム工学科 ポートフォリオ |
| 2.2(3)[2] | 自分自身の達成状況を継続的に点検を学習に反映させていますか？ | ◎ | 学生がポートフォリオを作成する中で、自己点検結果に基づいて今後の目標や取り組みの方針を設定することになっている。クラス担任はその内容を確認し、個々の学習達成状況に基づいて学習指導を行っている。 | 平成24(2012)年から、キャリア支援システムを利用して、クラス担任からの履修指導を学生が確認できるように改善された。 | T-1-7 キャリア支援システム https://sce.teng.miyazaki-u.ac.jp/karte/student/mau0010/ J-2-2 機械設計システム工学科 ポートフォリオ |
| 2.3 | 2.3 教育組織 | | | | |
| 2.3(1) | カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していること？ | | | | |

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|-----------|---|--------|---|---|--|
| 2.3(1)[1] | カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していますか？ | ○ | 専門分野と関連する科目を担当する教授5名、准教授5名、助教1名により4力学及び設計・加工分野を中心とした教育を行っている。学科・学部間には相互支援体制が構築されており、一部の専門科目や基礎教育科目は本学科担当以外の教員が担っている。教育研究支援組織として工学部教育研究支援技術センター、工学部教務・学生支援係、教育研究支援室がある。また、実験等の科目にはTAを配置し、教育支援に充てている。 | 前回審査において、機械系としての教育は提供可能であるが、いわゆる4力学を十分に教育できる体制としては不十分の可能性があるので、改善が望まれるとの指摘があった。2013年に機械力学分野の准教授1名を採用し、4力学を十分に教育できる体制となった。2012年の学部改組に伴い本学科の計測制御分野の教員1名が他学科の担当教員となったが、学科間の相互支援により、同教員による科目担当はそのまま維持されている。 | T-2-2 平成27年度工学部キャンパスガイド, pp.459-461 T-2-8 H28年度TA経費配分 A-2-2 学科ホームページ教員一覧 http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/staff/index.html A-2-3 工学部基礎教育センター http://www.miyazaki-u.ac.jp/techscee/index.html A-2-4 工学部教育研究支援技術センター規定 http://bunsho-db.clerk.of.miyazaki-u.ac.jp/ds/dsweb/View/Collection-3094 A-2-5 工学部教育研究支援室URL http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/support.html (学内のみ閲覧可) |
| 2.3(2) | カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織があり、それに基づく活動が行われていること。 | | | | |
| 2.3(2)[1] | カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織がありますか？ | ◎ | 教員間連絡ネットワーク組織として、学科内には教育改善のための組織である拡大教育改善委員会がある。学部には数学や力学などの工学基礎科目に関する教員間連絡ネットワークが組織されている。 | 変更なし | T-1-5 機械設計システム工学科 拡大教育改善委員会議事録メモ J-1-3 平成26年度工学部FDに関する報告書, pp.203 - 222 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/iinkai.html (学内のみ閲覧可) |
| 2.3(2)[2] | 上記の教員間連絡ネットワーク組織に基づく活動が行われていますか？ | ◎ | 学科内では、拡大教育改善委員会が半期に1回開催されている。また、工学基礎科目に関する教員間連絡ネットワークは、年に1回以上開催されている。 | 変更なし | T-1-5 機械設計システム工学科 拡大教育改善委員会議事録メモ J-1-3 平成26年度工学部FDに関する報告書, pp.203 - 222 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/iinkai.html (学内のみ閲覧可) |
| 2.3(3) | 教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。 | | | | |
| 2.3(3)[1] | 教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがありますか？ | ◎ | 学科には、学期毎にFDを点検する拡大教育改善委員会および日常的なFDを実施する教育プログラム検討委員会がある。学部には、工学部教育改革推進センターFD部門がある。また全学には、宮崎大学FD専門委員会がある。 | 変更なし | T-1-5 機械設計システム工学科拡大教育改善委員会 議事メモ T-2-9 宮崎大学工学部教育改革推進センターFD部門要項 T-2-10 宮崎大学FD専門委員会細則 |

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|-----------|--|--------|---|---------------|---|
| 2.3(3)[2] | 上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？ | ◎ | 機械設計システム工学科教育プログラム検討委員会規程が定められており、学科のホームページで開示されている。工学部教育改革推進センターFD部門要項が定められ、工学部のホームページで開示されている。全学共通科目のFDに関しては、宮崎大学FD専門委員会細則が定められ、宮崎大学のホームページに開示されている。また、工学部教育改革推進センターFD部門には学科から1名選出され、各種委員の一覧は教授会で配布され開示されている。 | 変更なし | T-2-9 工学部教育改革推進センターFD部門要項 http://bunsho-db.clerk.of.miyazaki-u.ac.jp/ds/dsweb/View/Collection-4164 T-2-10 宮崎大学FD専門委員会細則 http://bunsho-db.clerk.of.miyazaki-u.ac.jp/ds/dsweb/View/Collection-2773 T-2-11 機械設計システム工学科教育プログラム検討委員会規程 T-2-12 平成28年度工学教育研究部及び全学各種委員会委員選出表 A-2-6 機械設計システム工学科ホームページ http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/jabee/index.html |
| 2.3(3)[3] | 上記の仕組みに従った活動が行われていますか？ | ◎ | 学科では、各教員は授業内容、成績評価方法、授業改善の試みなどについて、科目毎に授業改善報告書を作成し、教員全員が参加する拡大教育改善委員会において意見交換を行っている。宮崎大学FD専門委員会および工学部教育改革推進センターFD部門は、学生による授業評価アンケートやFD/SD研修会などのFD活動を実施し、教員のFD活動に資している。 | 変更なし | T-1-5 機械設計システム工学科拡大教育改善委員会 議事メモ T-2-13 宮崎大学FD/SD研修会ポスターの一例 J-1-2 平成25年度工学部FDに関する報告書, pp.99-103 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/iinkai.html (学内のみ閲覧可) J-1-3 平成26年度工学部FDに関する報告書, pp.139-202 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/iinkai.html (学内のみ閲覧可) J-1-6 授業改善報告書 |
| 2.3(4) | 教員の教育活動を評価する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それによって教育改善に資する活動が行われていること。 | | | | |
| 2.3(4)[1] | 教員の教育活動を評価する仕組みがありますか？ | ◎ | 工学部には教員個人評価システムがあり、教育活動、研究活動、組織運営、社会貢献の4分野について毎年評価がなされている。教育活動については、授業担当、卒論指導、FD活動を定量的に評価する仕組みとなっている。 | 変更なし | T-2-14 宮崎大学における教員の個人評価の基本方針 T-2-15 教員個人評価のための自己申告書マニュアル https://srhumdb.miyazaki-u.ac.jp/db1.html (学内のみ閲覧可) T-2-16 工学教育研究部教員個人評価システムフローチャート |
| 2.3(4)[2] | 上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？ | ◎ | 教員は教員個人評価システムに活動状況を入力し、システムによって「教員個人評価のための自己申告書」が作成される。その仕組みは大学内の教員に開示されている。 | 変更なし | T-2-17 教員個人評価実施に関する大学情報データベースへの入力及び自己申告書の提出について(依頼) |
| 2.3(4)[3] | 上記の仕組みに従って教育改善に資する活動が行われていますか？ | ◎ | 教員個人評価では、学部長が当該教員の評価結果を通知し、活動が十分でない教員に対しては、活動の改善を促す措置がとられている。 | 変更なし | T-2-18 2015年度PDCA自己申告書(達成目標及び達成状況)(様式1) |
| 2.4 | 2.4 入学、学生受け入れ及び異動の方法 | | | | |
| 2.4(1) | プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資格を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって選抜が行われていること。 | | | | |

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|-----------|--|--------|--|---------------|--|
| 2.4(1)[1] | プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められていますか？ | ◎ | プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるため、アドミッションポリシーを定め、アドミッションポリシーに沿った各種入試選抜方法を各入試要項に定め、これに沿って選抜を行っている。 | 変更なし | A-2-7 アドミッションポリシー http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/admis_policy A-2-8 入学者選抜要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/26select A-2-9 平成28年度一般入試学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/general A-2-10 平成28年度推薦入試学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/recommen/recommend A-2-11 平成28年度帰国子女入試・社会人入試・私費外国人留学生入試学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/other A-2-12 平成28年度工学部編入学学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/files/H28kou_hennyu_2.pdf |
| 2.4(1)[2] | 必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が学内外に開示されていますか？ | ◎ | 受験生に配布される学生募集要項（一般、推薦、帰国子女・社会人・私費外国人留学生）およびホームページによって学内外に開示されている。 | 変更なし | A-2-8 入学者選抜要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/26select A-2-9 平成28年度一般入試学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/general A-2-10 平成28年度推薦入試学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/recommen/recommend A-2-11 平成28年度帰国子女入試・社会人入試・私費外国人留学生入試学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/other |
| 2.4(1)[3] | 必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法に従って選抜が行われていますか？ | ◎ | 公開している入試要項に定める内容に従い入試を行うために、入試実施要項を定め運用している。また、各年度の入学者数が示すように入試が実施され、必要な資質を持った学生を入学させるための選抜が行われている。 | 変更なし | A-2-8 入学者選抜要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/26select A-2-9 平成28年度一般入試学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/general A-2-10 平成28年度推薦入試学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/recommen/recommend A-2-11 平成28年度帰国子女入試・社会人入試・私費外国人留学生入試学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/other A-2-13 入試統計データ http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/exam/figures |
| 2.4(2) | プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的な方法が定められ、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、それによって履修生の決定が行われていること。 | | | | |
| 2.4(2)[1] | プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的な方法が定められていますか？ | | プログラム履修生は入学時及び編入時に決定するため、該当しない。 | 変更なし | 不要 |

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|-----------|---|--------|---|---------------|--|
| 2.4(2)[2] | プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的な方法が当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？ | | プログラム履修生は入学時及び編入時に決定するため、該当しない。 | 変更なし | 不要 |
| 2.4(2)[3] | プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の決定が行われていますか？ | | プログラム履修生は入学時及び編入時に決定するため、該当しない。 | 変更なし | 不要 |
| 2.4(3) | 学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それに従って履修生の編入が行われていること。 | | | | |
| 2.4(3)[1] | 学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められていますか？ | ◎ | 他の高等教育機関からプログラム履修生として受け入れる編入制度が定められている。なお、編入制度および受験資格については宮崎大学学務規則第13条で規定されている。また、編入方法には、推薦入学と一般選抜が設定されている。 | 変更なし | T-2-19 平成27年度キャンパスガイド, p.63(宮崎大学学務規則第13条) A-2-12 平成28年度工学部編入学学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/files/H28kou_hennyu_2.pdf |
| 2.4(3)[2] | 学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法が学内外に開示されていますか？ | ◎ | アドミッションポリシー、受験資格、編入年次(3年次)等は、受験生に配布される学生募集要項およびホームページによって学内外に開示されている。 | 変更なし | A-2-12 平成28年度工学部編入学学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/files/H28kou_hennyu_2.pdf |
| 2.4(3)[3] | 学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の編入が行われていますか？ | ◎ | 公開している入試要項に定める内容に従い入試を行うために、入試実施要項を定め運用している。また、各年度の入学者数が示すように入試が実施され、必要な資質を持った学生を入学させるための選抜が行われている。 | 変更なし | T-2-20 平成28年度推薦入学試験実施要領 |
| 2.4(4) | 学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的な方法が定められ、関係する教員及び学生に開示されていること。また、それに従って履修生の異動が行われていること。 | | | | |
| 2.4(4)[1] | 学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的な方法が定められていますか？ | ◎ | 転学部・転学科については、宮崎大学学務規則第33条で規定されている。さらに、転学部については、宮崎大学転学部規定ならびに宮崎大学工学部転学部に関する内規を制定し、具体的な審査基準を設けている。また、転学科については、「転学科の取り扱いに関する申し合わせ」を制定している。 | 変更なし | T-2-21 平成27年度キャンパスガイド, pp.66-67(宮崎大学学務規則第33条) T-2-22 平成27年度キャンパスガイド, p.91(宮崎大学転学部規程) T-2-23 平成27年度キャンパスガイド, p.431(転学部・転学科等について) |
| 2.4(4)[2] | 学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的な方法が関係する教員及び学生に開示されていますか？ | ◎ | 学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合の方法について、キャンパスガイド等により開示している。 | 変更なし | T-2-21 平成27年度キャンパスガイド, pp.66-67(宮崎大学学務規則第33条) T-2-22 平成27年度キャンパスガイド, p.91(宮崎大学転学部規程) T-2-23 平成27年度キャンパスガイド, p.431(転学部・転学科等について) T-2-24 転学科の取扱いに関する申し合わせ A-2-14 宮崎大学規程集 http://www.miyazaki-u.ac.jp/kitei/gakunai/houjinkaseitei.html (学内のみ閲覧可) |

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|-----------|---|--------|---|--|--|
| 2.4(4)[3] | 学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法に従って履修生の異動が行われていますか？ | ◎ | 転学部は、規定に従って申請条件を確認し、条件を満たせば面接により審査し、教授会の議を経て決定される。転学科についても同様の選抜方法で行われている。学内の他のプログラムとの間の履修生の異動は、過去2年間申請がなかった。 | 変更なし | T-2-21 平成27年度キャンパスガイド, pp.66-67(宮崎大学学務規則第33条) T-2-22 平成27年度キャンパスガイド, p.91(宮崎大学転学部規程) T-2-23 平成27年度キャンパスガイド, p.431(転学部・転学科等について) |
| 2.5 | 2.5 教育環境・学生支援 | | | | |
| 2.5(1) | プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されており、それらを維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていること。 | | | | |
| 2.5(1)[1] | プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されていますか？ | ◎ | 学科には学生が利用できる実験室、学生研究室、セミナー室、学部には教室や授業時間外に利用できる自習室、大学には図書館、食堂、休憩や運動施設と設備、学内無線LANなどがあり、プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な施設と設備が整備されている。 | 図書館の一階にはラーニングコモンズ(自由学習室・グループ学習室・セミナー室)が新設された。平成26(2014)年に宮崎大学創立330記念交流会館が竣工し、学生の学習と生活の環境がさらに改善された。 | T-2-25 宮崎大学配置図(木花キャンパス) T-2-26 夜間の自習室案内 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/kyouiku/pdf/study.pdf T-2-27 「工学部学生学習情報室」の利用について http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/kyouiku/pdf/stu_room.pdf T-2-28 宮崎大学附属図書館ホームページ(利用案内) http://opac.lib.miyazaki-u.ac.jp/?page_id=178 T-2-29 宮崎大学附属図書館ホームページ(館内図) http://opac.lib.miyazaki-u.ac.jp/?page_id=172 T-2-30 宮崎大学創立330記念交流会館 http://www.chodai.co.jp/news/docs_mt/20141224.pdf |
| 2.5(1)[2] | 上記の施設、設備を維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていますか？ | ◎ | 上記施設の管理・運営・修繕に必要な経費は、主として大学と学部予算から確保されている。 | 変更なし | T-2-31 平成28年度工学教育研究部予算配分 T-2-32 設備更新計画の見直しについて(依頼) T-2-33 平成28年度障がい学生支援に係る施設整備及び備品配備の要求について(照会) |
| 2.5(2) | 教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。 | | | | |

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|-----------|---|--------|--|--|--|
| 2.5(2)[1] | 教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがありますか？ | ◎ | 授業等での学生の理解を助けるため、シラバスによる授業計画の公開、e-learningシステムの整備を行っている。学生の学習・教育到達目標の達成状況のチェックと勉学意欲の増進のため、キャリア支援システムを構築している。また、学科には学年毎の担任と副担任、学部には学部長への意見箱や成績に関する申し立て制度があり、大学には学生なんでも相談室等があり、多様なルートから学生の意見や要望を収集して配慮する仕組みが構築されている。 | 平成27年度には学生の出席管理オンラインシステムを独自に構築し、教員が学生の出席状況を随時確認し、それに応じて指導を行っている。 | T-2-34 ALC NetAcademy2 T-2-35 平成27年度キャンパスガイド, pp.19-20(学生なんでも相談室) http://gakumu.of.miyazaki-u.ac.jp/gakumu/campuslifeinfo/campuslife/consulforstudent.html T-2-36 機械設計システム工学科出席管理システム T-1-5 機械設計システム工学科拡大教育改善委員会 議事メモ J-2-3 キャリア支援システム操作マニュアル(学生用) |
| 2.5(2)[2] | 上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていますか？ | ◎ | 教員、職員及び学生に対しては、キャンパスガイドにおいて開示している。 | 変更なし | T-2-34 ALC NetAcademy2 T-2-35 平成27年度キャンパスガイド, pp.19-20(学生なんでも相談室) http://gakumu.of.miyazaki-u.ac.jp/gakumu/campuslifeinfo/campuslife/consulforstudent.html T-2-36 機械設計システム工学科出席管理システム T-1-5 機械設計システム工学科拡大教育改善委員会 議事メモ J-2-3 キャリア支援システム操作マニュアル(学生用) |
| 2.5(2)[3] | 上記の仕組みに従った活動が行われていますか？ | ◎ | 上記の仕組みにしたがって全て実施している。 | 変更なし | J-2-4 宮崎大学附属図書館 資料 J-2-7 学生なんでも相談室(年度実績報告書) |
| 3 | 基準3 学習・教育到達目標の達成 | | | | |
| 3(1) | シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていること。 | | | | |
| 3(1)[1] | シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていますか？ | ◎ | 各教員が単独で行う科目については、シラバスに記載した評価基準に従って担当教員が評価している。複数の教員が達成度を評価する科目のうち、「卒業研究」は、卒業研究発表会の評価と指導教員による評価を行い、判定会議で達成度を評価している。「機械設計システム工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「専門教育入門セミナー」など複数教員が担当する科目も発表会及びレポートの評価を実施し、学科会議で達成度を評価している。 | 卒業研究評価シートの改善を行い、評価項目ごとに指導教員が達成度を評価した。 | T-3-1 平成27年度 卒業研究評価シート T-3-2 平成27年度卒業研究 発表会 採点結果 T-3-3 平成27年度 機械設計システム工学実験Ⅰ 成績原簿(整理簿) T-3-4 加工システム実習(機械設計システム工学科) 評価シート T-3-5 平成27年度 加工システム実習a 成績集計結果 T-3-6 平成27年度 専門教育入門セミナー 成績評価方法について(改訂版) T-3-7 平成27年度 専門教育入門セミナー 成績評価シート |
| 3(2) | 学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。編入生等が編入前に取得した単位に関しても、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。 | | | | |

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|---------|---|--------|---|------------------------------|--|
| 3(2)[1] | 学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？ | ◎ | 本プログラムで他の高等教育機関等で取得した単位が認定されるのは、1)編入による既修得単位、2)英語の外部試験の結果、3)放送大学で取得した単位、4)高等教育コンソーシアム宮崎で取得した単位である。1)、2)については、宮崎大学学務規則第19条及び21条と関連する規定が定められ、教授会の議を経て工学部長が認定する。3)、4)についても、その評価方法に関する実施要領が定められている。 | 変更なし | T-3-8 平成27年度 キャンパスガイド, p.65(宮崎大学学務規則 第19条, 21条) T-3-9 平成27年度 キャンパスガイド, pp.166-167(外国語科目の単位認定の取扱い) T-3-10 平成27年度 キャンパスガイド, p.157(放送大学との単位互換について,「高等教育コンソーシアム宮崎」単位互換について) T-3-11 放送大学と宮崎大学との単位互換の実施に関する取扱いについて(申合せ) T-3-12 高等教育コンソーシアム宮崎の運営委員会に関する申し合せ |
| 3(2)[2] | 学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？ | ◎ | 上記2)の英語は、受験した外部試験の結果に従って「外国語科目の単位認定の取扱い」により実施され、基礎教育の英語の単位として認定される。上記3)の放送大学及び高等教育コンソーシアム宮崎で単位を取得した場合は、定められた単位互換の実施方法により実施され、基礎教育科目の「学士力発展科目」に認定される。本プログラムでは、平成26(2014)年に上記2)で単位認定が行われた。 | 変更なし | T-3-9 平成27年度 キャンパスガイド, pp.166-167(外国語科目の単位認定の取扱い) T-3-10 平成27年度 キャンパスガイド, p.157(放送大学との単位互換について,「高等教育コンソーシアム宮崎」単位互換について) J-2-6 編入学関連資料 |
| 3(2)[3] | 編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？ | ◎ | 基礎教育及び専門教育の各科目について、宮崎大学、工学部及び機械設計システム工学部において、編入生等が編入前に取得した単位の認定及び評価に関する規定及び申し合わせが定められ、実施されている。 | 変更なし | T-3-13 平成27年度 キャンパスガイド, p.93(宮崎大学既修得単位認定規程) T-3-14 共通教育科目既修得単位認定の審査の取扱い T-3-15 編入学生の教養教育科目及び専門科目既修得単位読み替えに関する申し合わせ T-3-16 編入学生の単位認定について T-3-17 機械システム工学部編入生の単位読み替えの評点についての申し合わせ |
| 3(2)[4] | 編入生等が編入前に取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？ | ◎ | 編入前に取得した単位は、前述の規定などに従って、学科会議、工学部教務委員会、基礎教育委員会で審議され、教授会での審議の後、認定される。認定科目の評点は、本学科の単位読み替えの評点に関する申し合わせに従って評価される。本プログラムでは、平成26年度1名、平成27年度0名、平成28年度2名の編入学生の単位認定が行われた。 | 変更なし | T-3-18 共通科目の既修得単位の審査について(審査) T-3-19 編入学生の単位読み替え認定について T-3-20 既修得単位認定通知書 J-2-6 編入学関連資料 |
| 3(3) | プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められ、それによって評価が行われていること。 | | | | |
| 3(3)[1] | プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められていますか？ | ◎ | 各学習・教育到達目標を達成できるように、各学習・教育到達目標に対して表4で定められたように複数の主要科目を設定しており、これらの科目は表2に従って達成度が評価される。また、本プログラムを構成する全ての主要科目は必修科目であり、卒業要件を満足することで総合的な達成度が評価される。 | 新設科目などについても、適宜表2及び表4を更新している。 | 表2「学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準」 表4「学習・教育到達目標の達成するために必要な授業の流れ」 |
| 3(3)[2] | 上記の評価方法と評価基準に従って評価が行われていますか？ | ◎ | 各学習・教育到達目標を達成できるように設定された全ての主要科目は表2に示す評価方法及び評価基準に従って評価を行っている。また、卒業判定資料を基に、学科の卒業判定を実施しており、卒業要件を満足することで本プログラムの学習・教育到達目標を達成したと評価している。 | 新設科目などについても、表2を更新している。 | 表2「学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準」 T-3-21 進級卒業判定資料【卒業本判定】 J-3-1 進級卒業判定資料【卒業本判定】 |

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|-----------|---|--------|--|--|---|
| 3(4) | 修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していること。 | | | | |
| 3(4)[1] | 修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していますか？ | ◎ | 各学習・教育到達目標を達成できるように設定された全ての主要科目は必修科目であり、卒業要件を満足することで修了生全員がプログラムの全ての学習・教育到達目標を達成していることが保証されている。 | 各学習・教育到達目標の達成は、平成24(2014)年度から導入したキャリア支援システムにより確認している。学習・教育到達目標ベースの履修状況を学生本人及びクラス担任が随時確認できるようにしている。 | T-1-2 イエローブック(学生の手引き) T-3-22 平成27年度 キャンパスガイド, p.159(宮崎大学基礎教育科目履修規定) T-3-23 平成27年度 キャンパスガイド, pp.428-429(宮崎大学工学部専門科目履修内規) T-2-4 平成27年度 キャンパスガイド, pp.457-461(卒業に必要な単位数) |
| 3(5) | 修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていること。 | | | | |
| 3(5)[1] | 修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていますか？ | ◎ | 基準1(2)(a)～(i)を具体化した本プログラムの学習・教育到達目標(Phoenix)に基づいて、全ての主要科目が設定されている。これらは必修科目であり、卒業要件を満足することで修了生全員がプログラムの学習・教育到達目標を達成し、基準1(2)(a)～(i)の内容を身につけている。 | 変更なし | T-1-2 イエローブック(学生の手引き) T-2-4 平成27年度 キャンパスガイド, pp.457-461(卒業に必要な単位数) |
| 4 | 基準4 教育改善 | | | | |
| 4.1 | 4.1 教育点検 | | | | |
| 4.1(1) | 学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに関する活動が行われていること。 | | | | |
| 4.1(1)[1] | 学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがありますか？ | ◎ | 拡大教育改善委員会があり、各教員から提出された授業改善報告書をもとに、意見交換を行い、教育活動を点検する仕組みがある。また、本学科教育プログラム検討委員会により教育活動を点検する仕組みがあり、PDCAサイクルを構成し教育を実践している。大学には、教員個人の活動状況を点検・評価する仕組みがある。また、学科としては、自己点検評価報告書を作成し、工学部へ毎年報告することで教育活動を点検する仕組みがある。 | 変更なし | T-1-5 機械設計システム工学科拡大教育改善委員会 議事メモ T-2-11 機械設計システム工学科教育プログラム検討委員会規程 T-4-1 機械設計システム工学科ホームページ(JABEEへの取り組み) http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/jabee/index.html J-4-1 宮崎大学工学教育研究部教員個人評価実施要項 |

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|-----------|---|--------|--|--|---|
| 4.1(1)[2] | 上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？ | ◎ | 教育活動を点検する仕組みの概要は、学科ホームページに開示されている。また、工学部教員個人評価システムについては、工学部ホームページにて開示している。 | 変更なし | T-4-1 機械設計システム工学科ホームページ(JABEEへの取り組み) http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/jabee/index.html J-4-1 宮崎大学工学教育研究部教員個人評価実施要項 http://bunsho-db.clerk.of.miyazaki-u.ac.jp/ds/dsweb/Get/Document-23710/14 宮崎大学工学教育研究部教員個人評価実施要項.pdf J-4-2 平成26年度 工学部 機械設計システム工学科 自己評価報告書 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tenken/gakka/h26/n4.pdf (学内のみ閲覧可) |
| 4.1(1)[3] | 上記の仕組みに関する活動が行われていますか？ | ◎ | 各教員は、担当科目ごとに、1)改善を行ったこと、2)自己評価、3)今後改善すべきことの3項目を記載した授業改善報告書を作成し、半年ごとに開催される拡大教育改善委員会に提出し、意見交換を行い、教育活動の点検を行っている。さらに、毎年「PDCA自己報告書」を、3年毎に「教員個人評価のための自己申告書」を工学部に提出している。また、学科としては、「自己点検評価報告書」を作成し、工学部へ毎年報告し教育活動を点検している。 | 変更なし | T-1-5 機械設計システム工学科拡大教育改善委員会 議事メモ T-4-1 機械設計システム工学科ホームページ(JABEEへの取り組み) http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/jabee/index.html T-2-18 2015年度PDCA自己申告書(達成目標及び達成状況)(様式1) J-1-6 授業改善報告書 J-4-2 平成26年度 工学部 機械設計システム工学科 自己評価報告書 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tenken/gakka/h26/n4.pdf (学内のみ閲覧可) |
| 4.1(2) | その仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていること。 | | | | |
| 4.1(2)[1] | 教育点検の仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含んでいますか？ | ◎ | 社会の要求に対しては、企業および卒業生へのアンケート調査、機械系同窓会への教員の派遣、高大連携協議会開催等を実施している。学生の要望に対しては、意見箱の設置、授業改善に関するアンケート調査などで意見聴取を行っている。指摘された事項は教育プログラム検討委員会において検討し教育システムの改善に反映させている。また、自己点検評価報告書の作成を通して自己点検を行う機能を有している。 | 卒業生へのアンケート、各支部同窓会でのアンケートおよび県内企業へのアンケートを実施した。 | T-4-2 機械科学び直し塾に関するアンケート結果要約 J-1-2 平成25年度工学部FDに関する報告書, pp.76-93 (卒業(修了)生及び就職先へのアンケート調査) http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/iinkai.html (学内のみ閲覧可) J-1-3 平成26年度工学部FDに関する報告書, pp.81-130 (卒業(修了)生及び就職先へのアンケート調査) http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/iinkai.html (学内のみ閲覧可) J-1-4 宮崎大学工学部機械(システム)工学科 卒業生アンケート |

| 番号 | 点検項目 | 自己判定結果 | 基準への適合状況の説明 | 前回受審時からの改善・変更 | 根拠資料 |
|-----------|--|--------|--|---|--|
| 4.1(2)[2] | 教育点検の仕組みは、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていますか？ | ○ | 教育プログラム検討委員会は、自らの活動に対して自己点検評価報告書としてまとめ毎年学部へ提出している。よって、教育プログラム検討委員会は、自己点検を行うことを機能として有しており、仕組み自体の機能を点検できるように構成されている。 | 卒業生へのアンケート、各支部同窓会でのアンケートおよび県内企業へのアンケートを実施した。本学科の自己点検評価報告書を学部へ提出しており、仕組み自体の機能を点検できるように構成されている。 | J-4-2 平成26年度 工学部 機械設計システム工学科 自己評価報告書 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/tenken.html (学内のみ閲覧可) |
| 4.1(3) | その仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できること。 | | | | |
| 4.1(3)[1] | 教育点検の仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できますか？ | ◎ | 教育プログラム検討委員会議事録、拡大教育改善委員会議事メモおよび自己点検評価報告書は各教員に配布されている。 | 変更なし | T-4-3 機械設計システム工学科教員会議・教育プログラム検討委員会議事録の一例 T-1-5 機械設計システム工学科拡大教育改善委員会 議事メモ J-4-2 平成26年度 工学部 機械設計システム工学科 自己評価報告書 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tenken/gakka/h26/n4.pdf (学内のみ閲覧可) |
| 4.2 | 4.2 継続的改善 | | | | |
| 4.2 | 教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがあり、それに関する活動が行われていること。 | | | | |
| 4.2[1] | 教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがありますか？ | ◎ | 教育プログラム検討委員会、拡大教育改善委員会が存在し、教育プログラムを継続的にスパイラルアップする仕組みが整っている。教育プログラム検討委員会および拡大教育改善委員会は、学科の全教員で構成され、教育活動に関する全ての情報を共有することができ、有効に機能している。また、自己点検評価報告書を学部へ提出することによりプログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがある。 | 変更なし | T-2-11 機械設計システム工学科教育プログラム検討委員会規程 T-1-5 機械設計システム工学科拡大教育改善委員会 議事メモ J-4-2 平成26年度 工学部 機械設計システム工学科 自己評価報告書 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/tenken.html (学内のみ閲覧可) |
| 4.2[2] | 上記の仕組みに関する活動が行われていますか？ | ○ | 拡大教育改善委員会は学期ごとに定期的に開催されており、各教員は、毎年「PDCA自己報告書」を、3年毎に「教員個人評価のための自己申告書」を学部へ提出している。学科は、学部へ「自己点検評価報告書」を毎年提出している。 | 拡大教育改善委員会の開催回数を増やして、十分な時間を確保した。各教員は、毎年「PDCA自己報告書」を、3年毎に「教員個人評価のための自己申告書」を学部へ提出している。学科は、学部へ「自己点検評価報告書」を毎年提出している。 | T-1-5 機械設計システム工学科拡大教育改善委員会 議事メモ T-2-17 教員個人評価実施に関する大学情報データベースへの入力及び自己申告書の提出について(依頼) J-4-2 平成26年度 工学部 機械設計システム工学科 自己評価報告書 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tenken/gakka/h26/n4.pdf (学内のみ閲覧可) |